

日中友好新聞

京都府連版

第 339 号

日中友好協会京都府連合会

〒602-8026 京都市上京区新町通丸太町上ル 機関紙会館ビル302号

TEL&FAX 075-256-2764 <http://www.nichukyoto.gr.jp> info@nichukyoto.gr.jp

秋晴れの下、嵐山「日中不再戦」碑前の集い開催

平和の理念、友好の信念を堅持して、 日中両国の未来を創造しよう



九月二十三日、嵐山中ノ島公園において「9.18 柳条湖事件を忘れず、日中不再戦を誓う」碑前集会が行われました。不再戦碑前集会はこれまで日本と中国の戦争が再び起こらないようにとの願いに基づいて行われてきました。しかし近年の国際情勢をみると東アジアでは中朝口と日米韓の対立が深まり、地域紛争の危険は台湾海峡からフィリピン、ベトナムを含む南シナ海全域に広がっているかにみえます。

アジア人はアジア人と戦わない

そこで今年は日本ユーラシア協会、日本ベトナム友好協会、平和友の会からも代表を迎えてお話を伺いました。集いは、清水郁子さんの司会で十一時に始まり、先ず、主催者を代表して挨拶に立った宇野木洋会長は、「日中不再戦」碑が一九六八年に建立された背景にはベトナム戦争があり、沖縄や日本の基地からアメリカ軍が出撃していた状況の下で、「アジア人はアジア人と戦わない！」というスローガンのもとに、日中友好の枠を超えて多くの京都市民の協力によって建てられたものだ指摘しました。

続いて清水寺から駆けつけた大西晶允師がお話をされました。晶允師は今日の日本の状況や戦争が絶えない世界の状況を、碑文を揮毫した祖父・良慶和尚はどのようなように見ているでしょうと問いかけ、「日本は今、右肩下がりで食糧自給率が下がり続けているが、一方で防衛費は大幅に増大している。戦後、日本は恒久平和を理念として歩み始めたのであり、戦争の惨禍を誰よりも知っているのは日本人であると思う。戦争で命を失うのは若い世代です。ユネスコ憲章には、戦争は他者への憎悪から起こると書かれているが、そのユネスコに加盟している国々が戦争をしている。人間とはなかなか悟れないものなのです。だからこそ自説を強調するだけではなく、相手に対する理解や尊重が大事になる」とわかりやすく、またユーモアを交えて、世代を超えた日中友好交流の輪が広がることを願い、そのために努力すると述べられました。

言いたいことは率直に言って相互理解を深める

続いて、お招きした各界の方々の最初に、中国総領事館（大阪）の趙敏領事が挨拶し、併せて薛劍総領事のメッセージを代読しました。

薛劍総領事はメッセージの中で「日中関係は今、ここを超えられるかどうかという難所にあるが、この碑を建立するために努力された先人に学んで平和の理念、友好の信念を堅持してこそ日中両国の平和の未来を創造することができる」と述べました。またメッセージを代読した後、趙敏領事は特に発言し、過日、中国で日本人の小学生が刺殺された事件に触れて「悲しい事件であり、私たちも残念に思っています。犯人は前科のある人物で、治安強化の観点からも対策を講じたところです。日中の人々の心からの和解のためには民間の交流が大切だと思います」と述べました。なお総領事館からは、李子揚氏も参加しました。

若い頃に碑の建立に奔走した穀田恵二議員は先ごろ国会議員代表団の一員として中国を訪れた際のエピソードを披露し、「嵐山には京都市民が好きな周恩来さんの『雨中嵐山』の詩碑があるけれども、『日中不再戦』の碑も立っていることを覚えておいていただきたい。また『雨中嵐山』の詩の一説に「一筋の光明」という言葉があるが、一九一九年の時点で周恩来さんが見つめていた「一筋の光明」とは河上肇の経済学のことだ。中国は日本を通じてマルクス経済学を学んだのです」という話をしたと述べ、また福島原発問題、汚染水放出問題でも、「日本共産党を含め、日本国民、地元住民の中には、日本政府や東

電の対応に反対している人々が沢山いることも知っておいていただきたい」と述べてきた。「言いたいことは率直に言う」ことによって相互理解を深めることが大切だと述べました。

日本国憲法の理念の下で、アジアが世界平和をリードする

日本ユースアジア協会京都府連合会の田中宏会長は、「過去の二つの世界大戦はヨーロッパには不戦同盟、アジアには日本国憲法という二つの平和のタマゴを生み出したが、ヨーロッパでは四という統合を実現したものの、ウクライナ戦争を起こしてしまった。これからは日本国憲法の理念を担ってアジアが世界平和をリードする時代です」と述べました。

日本ベトナム友好協会京都支部の荒木穂積会長は「京都の平和友好団体は昨年、一緒にウクライナ戦争反対のコンサートを取り組んだ。日本ベトナム友好協会はベトナムから帰還した旧日本軍兵士らが参加して七十年前に設立されました。また来年はベトナム戦争が終結し、ベトナムが解放されてから50年になります。日本が中国への侵略戦争に破れてから80周年でもある。こうした機会に国際平和友好団体と一緒に平和の取り組みを強化することを願っています」と述べ、さらに震災に遭った能登半島で働くベトナムの技能実習生の支援活動を行ってきた経験を語りました。

平和ミュージアムのガイドとして不再戦・友好を語り続ける

「平和友の会」の伊藤昭さんは、「最初に個人的な話ですが」と前置きし、「旧満州で生まれ、四歳の時に京都に引き揚げてきた私にとって、日中不再戦碑

は何よりも大切なものです」と述べ、立命館大学国際平和ミュージアムのボランティア・ガイドグループとして活動を続け、これまでに四〇万人の来館者をガイドしてきた活動と、「不再戦・友好」の精神を胸に刻んで、今後は五〇万人のガイドをめざして活動を続けることなどを紹介しました。

集会の最後に府連事務局長の向田美智子さんが閉会挨拶を行い、参会された皆さんと発言された方々に感謝し、東アジアの平和と日中友好への希望を述べて集いを締めくくり、参会者一同で記念撮影をしました。

四〇人余りの参加者は強い日差しの中で、一時間の集会の間、発言者の言葉に聞き入り、拍手を送っていました。「とても充実した集いだった」、「皆さんのお話に深く共感した」といった感想が聞かれました。

その後、会場を「花のいえ」に移して、山本光春顧問の音頭で乾杯の後、食事をしながら交流会を行いました。交流会の中で、南京国際旅行社の湯福啓さん、夫妻で参加した石田文雄・日中和歌山県連事務局長、富田秀信・日ベトナム支部事務局次長が挨拶をしました。なお、碑前集会から懇親会の全過程を朝日新聞の下地毅記者が取材しました。

（斎藤敏康）



碑前集会後の懇親会

不再戦碑前の集会が盛会のうちに終わった後、嵐山の「花のいえ」にて恒例の懇親会が二十一人の参加で行われました。久しぶりの古い会員が親睦を深めた以外に、日本ユーラシア友好協会、日本ベトナム友好協会などの京都の国際友好団体の皆さんも顔をそろえての今までは一味違ったにぎやかな会となりました。特別ゲストとして紹介されたのは長年にわたって京都府連の平和ツアーでガイドとしてお世話くださった湯福啓さん、平和友好の碑を建立して毎年碑前祭を続けている和歌山県連事務局長の石田文雄さん、日ベトナム事務局の富田秀信さんの三人の方々でした。

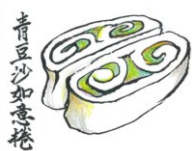
湯さんは通訳として活動する中で、日本にも歴史をきちんと学び、反省している人々がいることを知り自分もたくさん勉強させてもらった。特に京都府連とのつながりは強い。自分も一人の民間人としてこれからも日中友好に力を尽くしたいと元気に語られました。

石田さんは和歌山県海南市での支部活動を紹介され、市の産業に欠かせない漆の輸入を再開させる活動を通じて、市長まで巻き込む運動を広げ、二十人の会員を増やした経験が語られました。富田さんは一九九六年の栗田事務局長の時代に「悪魔の飽食」の京都での合唱公演をコンサートホールに入りきらないほどの聴衆を集めて成功させた思い出を語られました。いずれも私たちに足を踏み出して行動すれば仲間を増やすことは可能なのだと、勇気を与えてくれるお話でした。(S・H)

「小さき麦の花(隠入塵煙・return to Dust)」を見て 井手 淑子

いろんな意味で心に残る映画でした。甘肅省のすごく貧しい農村のなかで、必死になって働く農民、大地に立ち向かって麦を育てる夫と妻の姿がいつまでも思い浮かんでくる。障がいをもつ妻をいたわる夫の優しさが伝わってくる。妻も彼女なりのやり方でそれに応えようとする。やがて自分たちで家も新築した。その矢先に？水難事故による妻の死は、営々と築いてきた農民としての彼を打ちのめしたのだろうか、淡々と描かれてはいるが、その複雑な心境は、彼が自分の手のひらに描こうとした「麦の花」を消してしまふ。かつて彼女の手のひらに描いたそれは、きつと幸福の印だっただろうに。そして家を売ってこの土地を去って行く。去った後の家は直ちに壊される。まさにこれが中国式なのかなとも思ってしまう。彼はこれから都会に出て働くのだろうか？

習近平は中国農村の貧困層の撲滅をめざし、それが達成されたという。しかしそれは真の意味での達成というより、耕作に適さない場所から農民全体を移動させ、新たな地域(都市、街)に農民たちを移すことで可能となったという。ここにも農村の抱える大きな問題があると思つた。これが中国国内で上映され、若者などにも拡がったのに、上映禁止になったという。それはなぜか、映画を見ても？だった。なかなかいい映画と思われたのに・・・。



青豆沙如意捲

東アジア青少年歴史体験キャンプに参加して(2)

【3日目】

午前中、宇治の天ヶ瀬ダム近くにある尹東柱の碑を訪問。バスの中で、尹東柱の説明をしました。



その後、平等院を観光。写真撮影では、みんな百円玉を取り出してカメラに納まりました。宇治川旅館で天ぷら丼を食べた後は、暑い中でしたが商店街を散策しました。その後、バスで城南勤労者福祉会館に移動し、勝村誠先生からウトロ地区の説明をうけました。屋上からは、宇治の自衛隊が一望できました。そして三年前リニューアルされたウトロ記念館を見学しました。帰りは京都イオンでお土産を買って、夕食を各自で取りホテルに戻りました。

8月7日(水)

同志社中学に移動し、チャペルで井口和起府立大
学元学長より王希奇「1946」についての話があ
りました。生徒からは、この素晴らしい作品をどう
すれば広げられるかという質問が出ました。井口先
生は「最初の展示会は、舞鶴市や大学で開催された。
その後は日中友好協会など市民団体が主催。このキ
ャンプも市民が主催した。このキャンプ同様に市民



の運動でさらに広
げてほしいという
回答がありました。
その他にも生徒
から「引き揚げを
なぜアメリカは助
けたのか」「帰国す
るまで何日かかっ
たか」「自ら進んで
満州へ行ったのか、
強制なのか」とい
う質問がありまし
た。

午後から君島東彦立命館大学国際平和ミュージア
ム館長より「私たちは東アジアの平和をどのように
準備するか」というタイトルでお話がありました。
印象に残ったのは「紛争は構わない。人間である限
り紛争は起こる。紛争を戦争にしていけない。紛
争をどうやって解決するかが大切」という言葉です。
その上で、いくつか問題提起をされました。そのう
ちの一つが「憲法九条は中国、韓国からどのように
見られているか」ということで、私も早速中国の先

生に聞いてみました。中国の先生は「憲法九条は素
晴らしい理念。日本の侵略戦争があつてこの憲法が
できた。今、アメリカの軍隊が日本にたくさんある。
もしアメリカの軍隊がなくなるなら日本は独自に軍
隊が必要になるだろう」と答えてくれました。

君島先生のその他の問題提起も深いものでした。
「東アジアの歴史的和解はなされたのか、和解され
てないとすれば、どうすればいいのか」「東アジアは
東南アジアのASEANやヨーロッパのEUのような安
全保障はない。不安定でアナーキーな状態である。
かつてフィンランドはNATOとワルシャワ条約機構
の間に入り、冷戦を終結させた。東アジアにそうい
う国はあるのだろうか」君島先生の「日本は、フィ
ンランドのような国には現在の段階ではなれず、後
方支援しかできない」という言葉にショックを受け
ました。

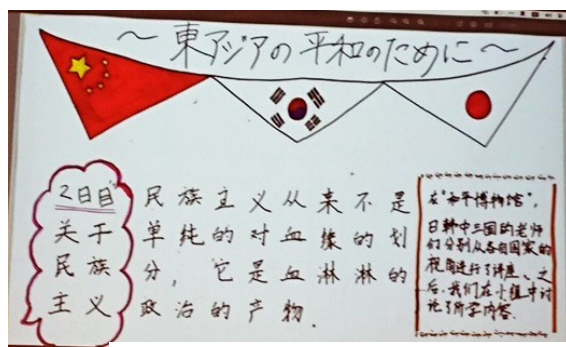


更に「東アジアの平和条約を
作るには二十年はかかる。あと
二十回は歴史キャンプはしな
いとイケない」とも言われまし
た。平和構築は一朝一夕にはで
きません。

その後、グループ討論があり、
キャンプを通しての感想、学ん
だことを模造紙にまとめまし
た。

パフォーマンスの発表では
各国の歌やダンスが披露され
ました。松田聖子さんの「青い
珊瑚礁」を歌ったグループがあ

りました。どうやら韓国で流行しているらしいです。



九時から日本の団体の解団式がありました。十時
には中国、韓国の団体がバスに乗り込み空港に向か
いました。生徒たちは涙を流しながら、来年の再会
を約束していました。来年は韓国で開催予定です。
最後に、十年前に比べると生徒たちがおとなしくな
ったように感じました。よく言えば互いの国の立場
を尊重し、傷つけるような、関係が悪化するような
発言が、ほぼありませんでした。十年前は、領土問
題、靖国問題などで激しく議論する場面が見られま
した。時代や世代の違いなのか、互いの違いにまで
踏み込めていないという感じがしました。

今回のキャンプの主催者、スタッフ、通訳には私
以外にも日中友好協会京都府連合会の会員、準会員
も多数参加しました。お疲れさまでした。(石田)

再会老朋友！

— 済南の夏天 — (1)

稲垣 沙織

1 老朋友のいるところ

「きみがまた中国へ来たら、ご馳走するし、済南のいろんなところへ連れて行ってあげるよ。」

彼はそう約束してくれて、済南の空港で別れた。もう十五年前のことである。それから私たちは別々の人生を歩んだ。私は京都で公立高校の教諭になり、彼は済南で新聞記者になった。二〇一〇年代の初頭にはそれぞれ家庭を持った。メールで近況を伝え合いつつも、時が経つにつれて、だんだんと疎遠になってしまふのだろうか、と寂しい思いをしていた。追い打ちをかけるように、二〇二〇年には新型コロナウイルスが蔓延し、日中両国間には行き来ができなくなってしまった。

「彼」というのは、私たち夫婦の南京大学留学時代の友人、段さんのことである。「段さん」と書く、他人行儀に聞こえて、どうも本人のことのように思えないので、私たちが以前彼をそう呼んでいたように、「段君」と書かせてもらう。私が今、中国語を話すことができるのは、段君のおかげである。彼なしに今の私はない。段君と我々日本人留学生は、よく一緒に食事をし、酒を酌み交わした。南京大学での思い出を共有する、最も大事な友人である。

今年四月にこの老朋友を訪ねることを思いたった。コロナでの渡航制限が終わって久しい。今行かなく

では。コロナ禍の最中は、日本で欠品になっていたマスクを国外に送れる最上限の個数まで送ってきてくれた。顔を合わせてそのお礼をちゃんと言いたい。行き先は彼が住む山東省の省都、済南だ。早速段君にそれを知らせると、大変喜んでくれた。さあ行くぞ！

2 ついに済南へ 八月一日(日)

この飛行機に乗り込むまで、実にバタバタした。その原因は、QRコード決済である。中国のQRコード決済の浸透率がすこぶる高い、というのは京都府連版「日中友好新聞」でも度々目にしてきた。私が知っている〇五〜〇七年の中国とは全く別の中国だ。コインと紙幣をポケットに詰めて外出していたあの頃とは、全てが違う。なんなら、七月に大阪の心斎橋にビザを申請しに行った時、わざわざ中国国内でのQRコード決済について、というパンフレットまでもらった。これは相当入念に準備しておかねばならないのだと、気を引き締めた。気は十分に引き締まっていたのだが、微信(WeChat)のアカウントにクレジットカードを紐付けするのを今日の今日まで怠っていたのである。家を出るまでになんとか紐付けはできたが、もうひとつ支払宝(Alipay)はダウンロードすらする暇がなかった。

今回の旅行は「エクスぺディア(Expedia)」という旅行アプリで航空券とホテルを予約した。関空に着くと、早速チェックインで問題が発生した。スマートチェックインが利用できなかったのだ。グランドスタッフに聞くと、今日はシステムの調子が良くなく、中国人以外のパスポートが読み込めない、とのことだった。アプリで申し込んだ海外旅行は、ち

やんと予約がされているのかどうか、予約番号が有効なのか、旅行が始まるまで不安で仕方がない。とにかく対面式のカウンターでチェックインした。席はエコノミー席の一番前の席になった。

関空から済南まで直行便があるのだが、交通費を節約するために上海経由で済南へ向かう。(段君には「なんで上海に飛んでいっちゃったのか、済南が遠くなったぞ」と言われた。)飛行機に乗ってから3時間余りで長江の河口が見えてくる。眼下に行き交う貨物船を認めると、私は思わず大きな声で「上海だ！上海だ！」と叫んでいた。最後に上海へ行ったのは、2006年の年末だ。南京大学留学中の私は、家族と上海で落ち合うことにし、そこで四、五日家族と旅行し、東方明珠や魯迅故居を巡った。

上海浦東空港で乗り換えをする。上海浦東空港でのトランジットは初体験だ。やはり空港が大きい。次のターミナルまで電車に乗って移動した。ピストン輸送をするこの乗り物を、中国語では「梭班车」と表記するようだ。なるほど、機械の「梭」のような動きをするということか。中国語に触れてだんだん興奮の度合いが上がっていく。(つづく)



済南の「大明湖」で

西双版纳の旅

——「倭人」のルーツを求めて（その三）

高床式住居文化とは 張莉

今回は西双版纳の部落に見られる高床式住居について説明しておきたいと思います。

西双版纳には哈尼（ハニ）族や傣（タイ）族などの昔から連綿と引き継がれた部族が部落を造って暮らしています。彼等に共通するのは高床式住居に住んでいることです。昔の人々が、高床式の建物に住むことを選んだのは、水害を免れるためや、野獣に襲われるのを防ぐ目的でした。水稻の田んぼには多量の水が必要で、おそらくは水利の良いところを選ぶとそれだけ水害も多いということでしょう。

日本では、神社の神殿に高床式の建物を見かけます。西双版纳に住む人たちが中国の東側の沿岸を波状的に移動し、やがて朝鮮半島の南側に移動して「倭」という国をつくり、さらにその住民の一部が日本列島の北九州や出雲の方に移動して作った国が日本列島の「倭人国」と言われる国です。彼らは水稻の技術や銅矛・銅剣などの青銅器や環濠集落（人々が部落の周囲に堀を掘って住む部落）を日本列島に導入しました。

中国において高床式住居は雲南省と揚子江下流域や中国東沿岸部にのみあり、殷・周・秦の国々には高床式住居は見られません。というより、世界の建築様式はどこでも土間式で、中国の限定地域とそれが拡散して伝わったアジアの国々にのみに見られるものなのです。また、日本の一戸建て住宅は床があり、これもはるか昔に高床式住居文化が日本列島に流入

したなごりとなっています。雲南の高床式住居には囲炉裏が見られ、これもまた日本の古き家屋の伝統的な景色です。また、日本の古き住居である入母屋造りの住居も、高床式住居によく見られます。

この地域の高床式建物は、今日でも建築の寸法基準が手・肘・尋によっている。家ごとにその家長の人体寸法を基準とするので、当然個人差は生じます。また、建築に限らず、衣服や籠などもすべて人体寸法によっています。二肘は肘を曲げて両手で手を横に広げ掌をグーにして合わせた両肘の寸法であり、高床式住居の入口の戸口の寸法は通常二肘と決められています。日本における現在の家の戸口の寸法も二肘に非常に近いことを実測で確かめることができます。一度やってみてください。

西双版纳における住居について両手を横に広げた「尋」という寸法で確かめてみると、小さい住居で六尋、大きい建物で八尋でした。『古事記』によるとイザナギとイザナミの国生みの時にできたオノゴロ島にイザナギとイザナミが天の高天原より降って、そこに天の御柱（みはしら）と八尋之殿（やひろのとの）を建てられた。この八尋之殿も昔の西双版纳の高床式住居に依拠する建物であると思われる。

高床式の穀倉の特徴は、建物から外側へはみ出た棟持（むねも）ち柱（はしら）があることです。屋根のいちばん高いところを「棟（むね）」といい、その棟を両端で支える柱として他にない建物の特徴になっています。日本の伊勢神宮内宮にも棟持ち柱があり、弥生時代の住居跡の遺跡からも棟持ち柱の跡が多く確認されています。このような見地から、日本の神社のルーツは中国南西部の高床式穀倉に依拠するこ

とは確実でしょう。

（ちようり・大阪教育大学）



哈尼族の高床式住居
（筆者撮影）



布郎族の高床式住居（筆者撮影）



棟持ち柱のある高床式穀倉（鳥越憲三郎編『雲南からの道—日本人のルーツを探る』講談社、昭和58年4月25日、130頁）

「五年ぶりの上海と本業（後編）」

藤野 真子

上海入りはいつもお盆前で、暑い時期ゆえに芝居の上演自体少ないが、やはり「時期的に」『紅灯記』のような抗日ものの样板戯（革命模範劇）を観られることもある。同業者の家人などは、庭園や文人といった研究対象とは裏腹に、優雅な崑劇より明快な样板戯の方が良いという。残念ながら今夏は样板戯の上演がなく、代わりに黄梅戯の名劇『天仙配』を観ることにした。久しぶりに足を運んだ逸夫舞台のチケット売り場に、昔と変わらず黄牛（ダフ屋）ま

でいたのには思わず苦笑した。

院生時代の筆者は、説唱のテキスト「董永変文」（敦煌文書の一つ）、つまり『天仙配』の源流である「董永売身」を授業で読んだことがある。独自の略字や古音・方言音による当て字と格闘しつつ読み進めるのは、なかなか骨が折れた。なお董永の物語自体はより古く、東晋の『搜神記』に見ることができ。以後さまざまな変遷を経て今日に伝わるが、黄梅戯では以下のようになっている。

玉帝の娘の七仙女は姉妹たちとそぞろ歩く中、父の葬儀を出すため身を売って奴隷となった貧しい青年・董永に目を留め、心を動かされる。下凡した七仙女は董永の年季が早く明けるよう、機織りで手助けをする。その折、妹を手伝うべく、色とりどりの衣装に身を包んだ仙女たちが天から降りてくる。黄

梅戯の楽曲は茶摘み歌を源流とするが、仙女たちの賑やかな様子は、農民の女たちが樂しげに働く姿を彷彿とさせる。自由の身になり（ここで中国では誰もが知る「樹上の鳥兒成双対：」が唱われる）、七仙女は董永の子を身ごもるが、密かに下凡したことが玉帝に知られてしまう。時が来たら生まれた子を渡すと董永に言い残し、七仙女は泣く泣く天へと帰って行く。

巖鳳英主演の映画版『天仙配』（一九五六年）では七仙女の帰天後まで描かれていた気がしたが、確認したところ記憶違いで、舞台と同じ結末だった。そういうえば京劇『白蛇伝』も白娘子が法海に塔に封じられる場面で終わり、許仙との間にもうけた息子との再会は演じられない。愛情を持つことは人間の女と何ら変わらないのに、舞台では彼女らに安寧の日々が与えられず、愛する者と引き裂かれたままに終わるのはなぜなのか。大団円でしめることの多い中国伝統劇にあつて、異類の女たちに対するこうした扱いには些か腑に落ちないものがある。

（ふじの なおこ・関西学院大学教授）



映画版『天仙配』より

コロナ禍の台湾研究活動道中記（第30回） 台湾の資格試験 高橋 孝治

前回までで二〇二二年六月になったという話をしました。筆者の考えですが、ある国・地域に居住することの大きな意義は、その国・地域に「住所がでること」だと思っています。例えば、二〇一九年二月一五日付『日中友好新聞』五面の「私と中国」にある通り、筆者は中国の資格試験の合格者なのですが、これは現地に住所があつたから関連手続きができたという面があります。

それならば、当然、次は台湾で何らかの資格試験を受けよう（合格して台湾でも何らかの専門家になる）と考えました。そして、出願時期などの問題も考慮すると、「勞健保暨勞動法規管理師」と呼ばれる台湾の社会保険勞務士試験に相当するものがないのではないかと結論に至りました。筆者の記憶では、自宅隔離終了後（四月五日）かなりすぐに出願手続きを行った記憶があります。しかし、この勞健保暨勞動法規管理師試験かなり大変でした。日本の社会保険勞務士試験は筆記試験一回のみなのですが、勞健保暨勞動法規管理師は事前にレポートを提出した上で筆記試験を受け、その後口述試験を受けるという三段階試験となっています。

で、五月上旬くらいだったと思いますが、住所があるため、受験票、その他レポート作成に用いる資料などが大量に送られてきました。レポートについては、台湾と日本の労働基準法はそこまで大きく変わらないので、書き上げた後、現地の友人にネイティブチェックを頼んだ後、メール提出をしました。



筆者が受けた際の労健保暨労働法規
管理師試験会場

そして、レポートの合格を確認した後、六月一日について筆記試験および口述試験を受けることになりました。(続く)

(2022年台湾フ
エロースップ探択

者・(元)台湾・淡江大学 日本政経研究所 訪問研究
員(2022年)／「高橋孝治 中国」でウェブを検索し

五年ぶりの訪中 横井和彦

八月十九日(月)〜二十三日(金)の四泊五日、
五年ぶりに訪中して雄安新区(河北省)と復旦大学
(上海)に行ってきました。いずれも指導している
大学院生に関する調査を目的としたものでし
た。

修士論文の指導している王さんは河北省容東の出
身で、「雄安新区の成果と課題」を研究テーマとして
いることから、私も一度見ておきたいと思い、訪問
しました。今回初めて、首都第二空港として北京市
中心部から南方40kmの大興区と河北省廊坊市広陽
区にまたがって建設された北京大興国際空港を利用
しました。ヒトデ形の空港ターミナルビルは単体で
は世界最大とのことで、四本の滑走路を有し、5G、
AI、ロボットなどの最先端技術でスマート化され

ているとのこと。大変広い空港でしたが、移動
用のシャトルではなく、すべて徒歩での移動でし
た。

空港から容東までは、北京から南に涿州、固安な
どの市・県を経て雄安新区に到着する全長約105km
の京雄高速道路を車で移動しました。大量のスマー
ト感知施設を設置し、5G専用ネットワークでカバ
ーされており、インターネット、ビッグデータ、A
I、自動運転などの次世代情報技術を総合的に運用
した「スマート道路」とのことですが、車はほとん
ど走っていませんでした。

「雄安印象展示館」で雄安新区の全体像を見学し
ました。「北京の非首都機能の分散を『牛鼻』とし、
北京・天津・河北省の協同発展を推進し、雄安新区
を高い起点で計画し、高い基準で建設する」「雄安新
区を高基準、高品質で建設する」という中国共産党
第十九回・第二十回全国代表大会における習近平総
書記の報告が大きく掲げられていました。「雄安市民
サービスセンター」へも行きました。「グリーン」(超
低エネルギー・再生可能エネルギー・緑化)、「スポ
ンジ都市」(透水レンガ・透水アスファルト・草植レ
ンガ)、「現代・知恵」(BIM補助設計原則、SOBIM運
営維持管理プラットフォーム、BIMからCIMへのス
マートシティ計画管理業務)などのキーワードが印
象的でした。両施設で強調されていた「雄安クラウ
ドプラットフォーム上の仮想都市で現実の都市を管
理することを実現する」との目標に「未来都市」を
感じましたが、人間が主なのか、データや機械が主
なのか、「本末転倒」のような気もしました。

容東は生活居住機能を中心とした「スタート区」

で、統一感のある高層住宅がほぼ完成していました
が、一階のテナント部分はまだほとんどが未入居の
状態でした。建設中の「中期発展区」「長期制御区」
も車で回りましたが、空地ばかりでした。一部企業
の社屋が完成しているようでしたが、北京からの移
転はまだのようでした。大学も北京林業大学など五
つほど来るようですが、空地が目立ちました。

続いて、博士論文の指導をしている李さんが研究
している「人民元の国際化」の専門家が復旦大学管
理学院にいらつしやるということで、上海の復旦大
学へも行ってきました。雄安から上海へは北京経由
で、ほぼ一日かけて「高鉄」で行きました。雄安駅
の周辺はまだ空地で、駅構内も閑散としていました。
「高鉄」は日本の新幹線と変わらず、快適でした。

復旦大学には客員研究員として日本研究センター
で長期滞在したことがあり、また学部学生を連れて
ほぼ毎年訪問していたので、大変懐かしく感じまし
た。管理学院の于保平教授と李さんの研究テーマに
ついて懇談しましたが、なぜか私が「中国企業のグ
ローバル化」についてエ

ッセイでいいから原稿を
書いてほしいと依頼され
宿題となつてしまいまし
た。研究交流の一環とな
ればとお引き受けして、
原稿を送ったところです。
(同志社大学教授)



雄安新区

第五九回学習・交流会の報告

炎天下、二カ月ぶりに開催。三人でした。

前回に引き続き、文化大革命がテーマです。文革の犠牲者は一〇〇〇万人、被害者は一億人、経済的損失は五〇〇〇億元と、別の本（天児 慧『中華人民共和国史』）には書かれています。

なぜこんなことが？ なぜこんなにひどく？ 誰も止めることはできなかったのか？ 等々、疑問だらけですが、具体的な事実についてわかっていないことはわずか。次回に持ち越すことを確認して散会しました。次回は十月十七日十三時半から、府連で行います。興味をお持ちの方の参加をお待ちしています。（井手 淑子）



第16回試験日 2024年12月7日(土)

試験時間 15:00~15:50 (50分)

受験級 初級、3級、2級、1級、特級 ※特級は地理、政治経済、歴史、文化・芸術・風俗習慣の4分野から1分野を選択。

受験申込受付 11月7日(木)まで

今回は京都でも実施します。

※くわしくは、「中国百科検定」と検索！

ぜひチャレンジしてみてください。

书呆子 (中国語で「本の虫」という意味)

「宇宙の超難問 三体問題」マウリ・ヴォルトネン、ジョアンナ・アノソヴァ、コンスタンティン・ホルシェブニコフ、アレクサンデル・ミユラリ、ヴィクトル・オルロフ、谷川清隆著、谷川清隆監訳、田沢恭子訳、ハヤカワ文庫、2024年3月25日刊、355p。

「表表紙の裏」より…宇宙に浮かぶ二つの天体の運動を巡る「三体問題」は、科学の進歩により計算可能となった。では三つの天体の場合は？劉 慈欣の『三体』に登場し、一躍知られるようになった天体物理学の難問「三体問題」。ピタゴラス、ニュートン、オイラー、ラグランジュ、ポアンカレ、アインシュタイン……。この難問に挑んだ名だたる科学者たちの知的格闘の歴史をたどっていくと、カオス、時間の矢、ブラックホールの衝突といった魅力的な謎にも次々遭遇！ロマンに満ちた宇宙の魅力的な衝突といった魅力的な謎にも次々遭遇！！ロマンに満ちた宇宙の魅力を改めて見つめなおす。とあります。

「はじめに」より…①一般読者を対象として三体問題の解説書を書くのはことのほか手ごわい挑戦だ。「三体問題」は、科学そのものと同じくらい古くから存在し、その解明を目指して数え切れないほどの科学者たちが力を注いできた。それにもかかわらず、我々はこの問題が解決できたと宣言できる段階にまだ至っていない。数式を使わないでこの問題の面白さを一般読者にいくらかでも伝えるのも、また容易でない。多くの大学の数学科で研究されているような問題を、数式なしで一般読者に理解できるようにするには、必然的に大幅な単純化を要し、多くの場合、天文学での応用に頼ることになる。天体系は、純然たる数学的構造よりも視覚化しやすい可能性があるからだ。②ニュートンの研究に始まる「三体問題」を、歴史的にアプローチする。その対象の規模は膨大な範囲にまたがる。最少の端では太陽一個分の質量を扱い、最大の端では、太陽100億個分以上の質量を扱う。研究対象となる天体は、地球から凡そ八光年分の距離にある太陽のように近傍に位置する場合がある一方で、銀河100億光年のブラックホール連星は、地球から30億光年も離れている。……ロシア、フィンランド、日本人の科学者が協力して、歴史的な蓄積の上に「空をつかむ」否、今なお解決しきれていない「宇宙・天体」を理解し、しかも、数式なしで一般読者に理解できるように格闘したのがこの本です。「あとがき」より…2019年に劉 慈欣の『三体』が出版された時、三体問題の専門家としては「題名が聞き捨てならない」から始まり、読み始めての第一印象は、「さすが中国の知識人」というものだった。……一つはつきりしているのは、著者が物理学や天文学の知識を深くわきまえていること。心底驚かされた。……本書をきっかけに天文学・天体物理学、そして科学者たちの営みに興味を持つ方がさらに増えるのであれば、これに勝る喜びはない。と締めくくられています。（中本 学）

最新の物理学・天文学の「教養」として、数学嫌いであった方も、是非、一読に値する本として、お勧めしたく思います。（中本 学）

【10月の予定】

- ・10/2 13:30~15:30 京都高齢者大学 講師：宇野木洋「東アジアの文化芸術」
- ・10/17 13:30~学習・交流会 府連事務所
- ・10/19 14:00~中国百科検定サロン 講師 芝田一広氏 府連事務所
- ・10/20 14:00~16:00 喬彬「我在日本工作的理由」(私が日本で働く理由)：宇治支部企画、府連事務所、zoom
- ・10月下旬 Alex Jiang (公認会計士) 左京支部企画

日中友好協会京都宇治支部企画

我在日本工作的理由

2024 年 10 月 20 日 (日)

14 : 00 ~ 16 : 00

日中友好協会京都府連事務所

参加費無料

※Zoom 参加も可です！



今回は留学生として来日し、大学院卒業後は日本の企業で働き、その後起業・独立して京都の地でグローバルに、アグレッシブに活躍されている喬彬さんにお話いただきます。

なぜ日本に来たのか、なぜ日本で会社を創ったのか、苦労された点や将来の夢なども語っていただき、参加者のみなさまと意見交流もできればと思います。

※参加ご希望の方は 10 月 17 日(木)までに、以下を明記してお申し込みください。

申し込み先: info@nichukyoto.gr.jp

☎ 075-256-2764

- ・お名前
- ・メールアドレス
- ・参加形態(会場参加 or Zoom 参加)

講師: 喬彬(きょう ひん)さん



生田グローバル株式会社代表取締役社長

京都アカデミー(NPO 法人 KANU NIPPON) 理事・事務長

2009 年 立命館大学 文学部 卒業
2012 年 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了

京都府名誉友好大使(2011~)
京都国際観光大使(2011~2023)